



2026 年 7 月 8 日

独立行政法人国立科学博物館

科博NEWS展示「ネアンデルタール人と現生人類は価値観を共有していた」のご案内

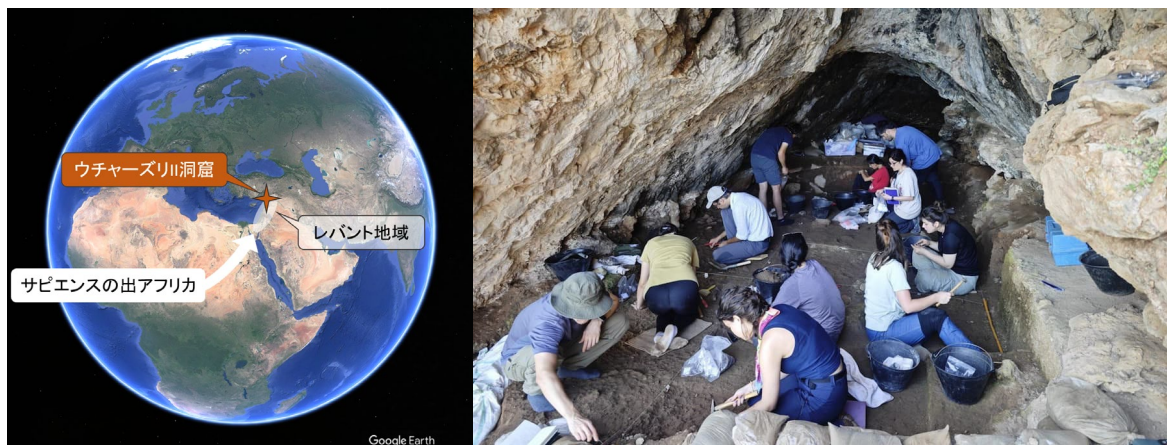
独立行政法人国立科学博物館(館長:真鍋 真)は、来る 2026 年 7 月 14 日(火)から 9 月 6 日(日)まで、科博 NEWS 展示「ネアンデルタール人と現生人類は価値観を共有していた」を開催いたします。

国立科学博物館生命史研究部・森田航研究主幹を含む国内研究機関 3 名、海外研究機関 8 名からなる共同研究グループは、トルコ共和国での発掘調査によりネアンデルタール人と現生人類両方の化石を発見し、2026年7月初旬に京都大学と共同で研究成果の論文発表とプレスリリース^{注釈1}を行いました。

本研究から、ネアンデルタール人と現生人類は 2 万年以上にわたり、安定して共通の文化を維持していたことが分かってきました。彼らは同じ手法で石器を製作し、同じ食糧調達戦略をもっていました。また、両者は食用にむかない特定の種の貝殻を収集しており、文化の共通性は実用面だけではなく、非実用的な自然物の収集行動にも及んでいました。

このような文化の共通性の背景には両者の交流があり、その交流の基盤には「役に立たないが美しい」貝殻の収集に表れているように、種を超えた価値観の共有があったと考えられます。

本 NEWS 展示では、本研究の内容をパネルでわかりやすく解説し、ネアンデルタール人の子供の下顎骨レプリカ(初公開)や巻貝でつくられたビーズ(発掘された貝殻と同種のもの)等を展示いたします。またあわせて、発掘現場の様子を、映像と写真でご紹介します。



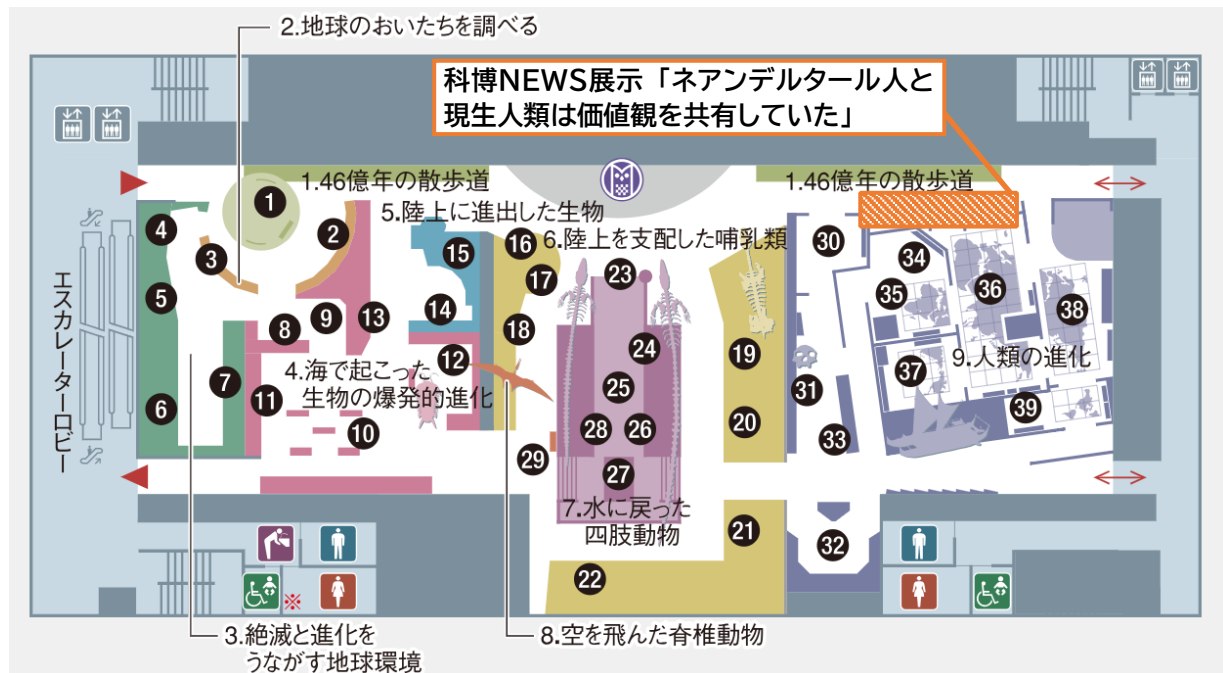
ウチャーズリ II 洞窟の位置するレバント地域と発掘現場の様子

【主 催】 国立科学博物館

【開催期間】 2026年7月14日(火)～9月6日(日)

【開催場所】 国立科学博物館(東京都台東区上野公園7-20)

地球館地下2階 人類の進化コーナー通路



【参考情報】

〈プレスリリース〉^{注釈1}

ネアンデルタール人と現生人類は価値観を共有していた―「美しい」貝をどちらも収集の証拠を発見―

[20260707_prhttps://www.kahaku.go.jp/news/albums/abm.php?d=5389&f=abm00022251.pdf&n=20260707_press.pdfess.pdf](https://www.kahaku.go.jp/news/albums/abm.php?d=5389&f=abm00022251.pdf&n=20260707_press.pdfess.pdf)

〈論文タイトルと著者〉

Long-term cultural continuity across the Neanderthal-modern human sequence at Üçağızlı II Cave, northern Levant

(レバント北部、ウチャーズリ II 洞窟における、ネアンデルタールと現生人類にまたがり長期に渡った文化の連続性)

[Long-term cultural continuity across the Neanderthal-modern human sequence at Üçağızlı II Cave, northern Levant | PNAS](https://www.pnas.org/doi/10.1073/pnas.20260707)

本件についてのお問合せ先

独立行政法人 国立科学博物館

経営管理部 研究推進・管理課 研究活動広報担当：稲葉 祐一

担当研究員：森田 航（生命史研究部 人類研究グループ 研究主幹）

〒305-0005 茨城県つくば市天久保 4-1-1

TEL:029-853-8984 FAX:029-853-8998 E-mail:t-shuzai@kahaku.go.jp

国立科学博物館HP <https://www.kahaku.go.jp/>